

★小児(5歳～11歳)のコロナワクチン接種・追加接種(3回目)について★

小児(5歳～11歳)のワクチン接種については、今までは、オミクロン株流行下でのエビデンスが不十分であることから、努力義務は適用しないこととなっていました。しかし、9月2日に行われた厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において、小児接種(1、2回目)、小児追加接種(3回目)について努力義務が適用になりました。追加接種(3回目)は、2回目の接種から5か月以上経過後に行うことが適当となり、9月6日から開始となりました。

小児ワクチンの対象のお子さんの接種券は、5歳の誕生日後に郵送しています。まだ接種していないお子さんで接種券がお手元にある方は、同封の説明書等をご覧になり、ワクチンの効果と副反応等を理解したうえで、接種するようにお願いします。3回目の接種券は、2回目の接種日から5か月経過する方に順次郵送します。

なお、努力義務が適用されることとなりましたが、接種はあくまでも本人及び保護者の意思で受けていただくもので変わりないため、強制ではありません。

	初回接種(1回目・2回目接種)	追加接種(3回目接種)
ワクチン	ファイザー社(5～11歳用)	ファイザー社(5～11歳用)
接種回数	2回	1回
接種間隔	通常、3週間(※1)	2回目接種後5か月以上
接種対象年齢	1回目の接種日に5～11歳(※2)	3回目の接種日に5～11歳

(※1) 1回目の接種から間隔が3週間を超えた場合、1回目から受け直す必要はありません。できるだけ速やかに2回目の接種を受けていただくことをお勧めします。

(※2) 初回接種については、1回目の接種時の年齢に基づいて判断します。
1回目の接種時に11歳だったお子様が、2回目の接種時までに12歳の誕生日を迎えた場合、2回目接種にも1回目と同じ小児用ワクチンを使用します。

★乳幼児(生後6か月～4歳)接種について★

国において、乳幼児(生後6か月～4歳)を対象の新型コロナワクチン接種について議論されていますが、詳細については決まっています。詳細が決まり次第お知らせします。

★新型コロナウイルスワクチン未接種の方へ★

～ 今一度ワクチン接種をご検討ください ～

新型コロナウイルス感染症の第7波によるかつてない感染拡大により、入院者への対応などに医療機関では他の疾病の診療にも影響が生じています。重症化の割合は、若い方ほど低い傾向にありますが、若い方であってもコロナワクチン接種の接種回数が少ないほど重症化し、入院に至る確率が高くなっています。医師の指示により接種を見合わせている方を除き、今一度接種をご検討願います。

本年6月から、武田社のノババックスワクチンが接種可能となっています。ファイザー社やモデルナ社のワクチンの成分に対するアレルギーや副反応のために接種を控えている方は、かかりつけの医師等と相談のうえ、接種を検討してください。(津久見市内の医療機関ではノババックスワクチンは接種していませんので大分県のホームページをご確認のうえ予約してください)

新型コロナワクチン接種についてのお知らせ

★オミクロン株に対応したワクチン接種について★

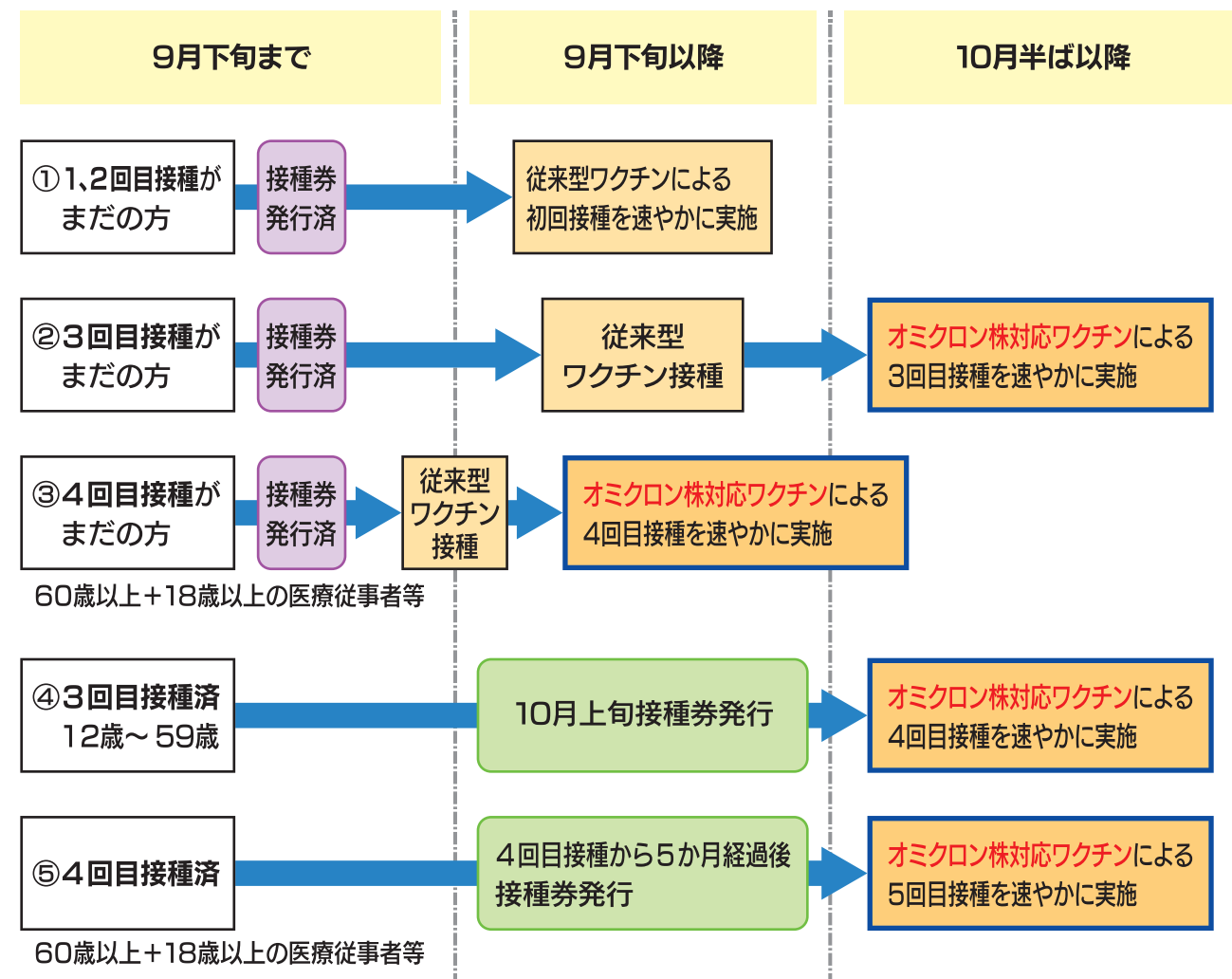
9月2日に行われました厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会にて、オミクロン株と従来株に対応した2価ワクチンについては、60歳以上の方・重症化リスクの高い等の理由で接種券を発送している方(※1)から接種開始します。

また、4回目接種の一定の完了が見込まれた時期に、社会機能を維持するために必要な事業の従事者等や年代別などの初回接種(2回接種)を完了した方(※2)に接種券を順次送付します。

(※1)、(※2)の方以外の初回接種(2回接種)を完了している方への接種は10月中旬以降に接種券を発送する予定です。また、オミクロン株対応ワクチン接種は、現時点では1人1回の実施予定です。

★今後の新型コロナワクチン接種のスケジュールについて★

オミクロン株対応ワクチン接種に向けた接種券の配布等について



※スケジュールは現時点で想定されるものです。今後、国の議論により変更があり得ます。

【オミクロン株に対応したワクチン】
現在、流行しているオミクロン株に対応した成分が含まれるため、従来ワクチンを上回る重症化予防効果や、短い期間であるものの、感染予防効果や発症予防効果も期待されています。

※ワクチン別の対象者は、ファイザー社ワクチンは12歳以上、モデルナ社ワクチンは18歳以上です。
※5歳から11歳の方は、現時点では3回目接種(小児用ワクチン)までです。